

29年度会員数
連盟 3,244名
協会 9,658名
平成29年4月末現在

れんめい

鹿児島県
看護連盟
だより
2017.5.15



レンコさん

カンタくん

INDEX

鹿児島県看護連盟会長挨拶・鹿児島県看護協会会長挨拶	2
日本看護連盟会長挨拶・たかがい恵美子参議院議員挨拶	3
あべ俊子衆議院議員挨拶・木村やよい参議院議員挨拶	4
石田昌弘参議院議員挨拶	5
平成28年度鹿児島県看護連盟各委員会活動報告	6～8
会議・研修報告	9～10
「元気のある職場紹介」	11



力強い組織を作しましょう

鹿児島県看護連盟
会長 小原圭子



平成28年度の看護連盟は第24回参議院選挙を中心に活動を展開してきました。施設、支部、ブロック、県連盟、本部連盟の連携を強化して看護職の代表を送るために看護職の問題解決を行うにはなにが必要かを会員ひとりひとりが問いかけながらの戦いだったと思います。自分達が上げた目標数には届きませんでしたがお陰様で2期目の当選が出来ました。いろいろご協力ご支援有難うございました。

さて、当県ではこの戦いを通して何が問題かが少しではありますが見えてきています。会員一人一人の意識の問題もありますが、この活動を依頼した我々が「看護職議員の活動と会員の困っている事を具体的に結びつけられなかった」ことだと思えます。

でもこれからです。今後、会員各自、リーダー、施設幹事、支部長、ブロック長、の連携がスムーズにとれ情報がスピーデーに流れていく体制ができております。又県連盟、支部には青年部委員間の強い連携ツールがあります。これを有効活用して「看護職議員と看護政策、現場の問題との関係を身近に感じてもらうような」働きかけが必要です。

又支部、ブロック、県が企画して行っているリーダー研修I、II、IIIにあると思えます。会員さんたちへリーダーさん達がいかに「必要性を伝える」ことが出来るかです。

つまり伝えることは、若者たちの政治への関心の高さを上げ・投票行動へとつなげていけると思えます。又中堅の方たち、ベテランの方たちが現場の問題と看護政策への視点、現場の問題と政治との関係を考えるゆとり等が上げられます、今一番必要なことは何かを考えていくことが大切だと思えます、これらを踏まえて今後の活動計画に具体的にあげて行く必要があると思えます。鹿児島県看護連盟は29年度活動目標は

1、力強い組織作りを目指す 2、会員一人一人が成熟・自律した行動がとれる 3、看護政策の実現 4、会員福祉の充実を目指しながら鹿児島県看護連盟が力強い組織になれるよう知恵と経験を積み上げていく事が大切だと思えます。ご協力ご支援をよろしくお願いします。



現在の看護協会活動の動き

公益社団法人鹿児島県看護協会
会長 田畑千穂子



本県では、平成 37 年（2025 年）の地域医療の将来像を示す「鹿児島県地域医療構想」が 11 月に策定され、二次医療圏ごとに地域医療構想調整会議が始まっております。地域の病院、訪問看護ステーション、老健施設等が協力して、地域のニーズ踏まえた人材育成を行うことが地域づくりにつながっていくものと考えます。

本年度の鹿児島県看護協会通常総会は、5月20日（土）かごしま県民交流センターの県民ホールで開催予定です。午後は、三職能合同研修会として、日本看護協会の川本理事を迎え、「看護師のクリカルリーダー（日本看護協会版）の活用の推進」についてご講演頂きます。本年度の重点事項は、①地域包括ケアシステムの推進、②看護職が働きやすい環境づくりの推進、③看護の質向上及び看護職の役割拡大、④会員サービスの強化と会員増、の4点です。新規の取り組みとして、若手看護職の就業支援、看護教員の研修支援、訪問看護事業者の実態調査、訪問看護理解・連携、供給体制推進事業、子ども子育て世代包括ケア推進事業、認知症対策・連携体制整備事業など計画しました。多くの方々に活用して頂ければ幸いです。

今春に、病院施設では九州初となる鹿児島大学病院の「看護師特定行為研修センター」の第一期生7名が卒業となります。特定行為研修修了生の活動は、地域医療の在り方やチーム医療に新しい風を吹かせてくれるものと確信しております。同センターでは平成29年度より、離島へき地で活躍できる科目区分として「呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連」「感染に係る薬剤投与関連」が追加されました。県内の多くの看護師達に特定行為研修を目指してほしいと念願しています。

最後に、今年は奄美群島が世界自然遺産登録へ動き出し、平成30年にその結果が発表となります。豊かな自然を守りつつ、住み慣れた地域で最期まで暮らせるような社会の実現に向けて、県民の皆様のニーズに応えられる職能団体としてさらに貢献したいと考えております。今年も、どうぞよろしくお願いいたします。



3つの「気」 気づき、やる気、そして根気

日本看護連盟会長
草間 朋子



新しい年度をむかえ、夢と希望に胸を膨らませた若者達を迎え入れる職場のみなさまは、期待と不安な時を過ごしておられることと思います。桜をはじめ百花繚乱の中で、明るく心豊かな気持ちで新しい年度がスタートできる日本は素晴らしいと思っています。

新人のみなさんの抱いている夢と希望を、継続し、もっともっと膨らませていける就労環境を整えていくことが、私たち連盟の役割です。このスタートの時期に、新人のみなさん（もちろん旧人も含めてですが）に、「政治の力」が如何に大切であるかを理解していただく努力をお願いしたいと思います。

昨年の参議院選の苦戦を経験し、看護連盟の組織としての力を強化する必要性を改めて認識し、平成 29 年度は、組織強化に取り組むことにしました。

参議院選では、医療・介護関係の諸団体が、それぞれ組織代表を政治の場に送り出すために、候補者を擁立しました。これは、それぞれの団体が、抱えている課題を解決し、制度等として実現していくためには、政治の力が大切であることを認識している証です。これらの団体の中で、もちろん日本看護連盟が、もっとも規模の大きな団体であることは言うまでもありません。何といても、看護職が医療職の半数以上を占めているわけですから。しかし、得票数の会員比率（全ての得票数が会員だったとした場合の得票率）が、100%以下であったのは私たち看護の団体だけでした。

日本看護連盟は、「ベッドサイドから政治を変える」という、素晴らしいスローガンを掲げています。私たち看護連盟の進む方向性を明示しているこのスローガンが、私は大好きです。

ベッドサイド（私たちの身近な職場）にある課題に「気づき」、課題を解決しようとする「やる気」をもって、しっかり声にし、政治そして行政の俎上に載せていかなければなりません。私たちの抱えている課題は、私たち自身で解決していかなければ誰もやってくれません。それぞれの職種が、専門職としてのプライドをもってお互いにパートナーとして認め合っていくことが、これからのチーム医療の基本だと思っています。世の中は複雑です。さまざまな課題が直ぐに実現する訳ではありません。諦めない「根気」が必要です。根気よく積み重ねた努力は、必ず報われると思っています。

会員一人ひとりのみなさまの、そして、連盟組織としての努力を根気よく積み重ねて参りましょう。

この度、NP（診療看護師）の研修（今年で7回目になります）で、ハワイを訪れました。訪れるたびに、アメリカの看護師のみなさんのプライドの高さと、自律性に、感嘆しております。



ごあいさつ

参議院議員
たかがい 恵美子



鹿児島県看護連盟の皆さまこんにちは。

丁酉の2017年は、直感力と行動力を磨いて運氣を取り込み「いのち（人生）の実り」について、改めて考えたいと思っています。

ひとの生きる力を守り支える看護のパワーを存分に活かせる社会づくりを進めたい。そのためにも、私たちは自らの知識・技術・経験を総動員して、諸般の労働法制の改革に取り組んでいかなければなりません。

これからの数年間は、従来の予想を超える多様な医療需要の増加と供給市場の拡大が急速に進むと見込まれます。変化を座して待つのではなく、プロの目利きで時代を先取りする攻めの姿勢で挑みたいものです。

また、2015年に始動した我が国の女性の健康科学については、1月に「女性医療職エンパワメント推進議連」を立ち上げ十分な学術基盤を醸成すべく準備を進めています。また、2016年に始動した「幸齢社会への挑戦『ハッピープラチナ運動』」は、順調に各所での事業が充実するように、引き続き力を注いで参ります。

さらに2期連続の自民党女性局長として、7つの重点政策の一層の推進と女性議員の育成と政治力向上の体制整備にも取り組みます。

本年も、看護職の誇りを胸に鋭意努力する所存です。

みなさまのますますのご繁栄を心よりご祈念申し上げます。



ごあいさつ

衆議院議員
あべ俊子



鹿児島県看護連盟の皆さま、こんにちは。いつも温かいご支援を賜り心より感謝申し上げます。

医療・看護を取り巻く環境は年々変化しており、国民の安全と安心を守る医療体制は今、大きな転換期を迎えています。国民の理解を得られるかたちでの税の投入と、持続可能な医療を含む社会保障制度の確立が求められているところです。そのような状況を踏まえつつ、現在開催中の第193回通常国会では、来年4月の診療報酬・介護報酬同時改定に向けた議論を進めております。医療・看護・介護が抱える課題について、また、看護職の皆さまが快適に働くことができる環境づくりのため、これからも国政において積極的に発信してまいります。

一方党内では副幹事長として、自然災害の復興支援やふるさと対話（地方の生の声を聞かせていただくプロジェクト）のほか、女性活躍推進や農林水産振興のための取り組みを担当しています。週末は地元選挙区の岡山に戻り、多くの皆様とふれあう中で地元の声を聞かせていただきながら、地方創生のため、中山間地域のさまざまな課題、政策に全力で取り組む日々を送っています。

さらに自民党が掲げる一億総活躍の旗印のもと、現在、女性の活躍を推進していく政策を考える党内のプロジェクトチーム「女性活躍・子育て・幼児教育 PT」の座長を拜命しております。育児休業取得後も円滑に職場復帰ができる環境整備や男性の育休取得の推進、育児休業中の方に代わって職場を支えている方への支援、またこれからの超高齢社会を考えると、保育と同時に介護による離職を防ぐための取り組みも急務となっています。そこで本 PT では、それら喫緊の課題の検討を精力的に進めているところです。

今後も皆さまの現場の声をとお聞かせいただきながら、さまざまな課題を少しでも改善・解決の方向へ動かし、いけることを目指し、精一杯取り組んでまいります。引き続きご指導・ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



ごあいさつ

参議院議員
木村 やよい



鹿児島県看護連盟の皆さん、こんにちは。

京都府第三選挙区（京都市伏見区、長岡京市、向日市、大山崎町）支部長の木村やよいです。

私が4人目の看護職議員として初当選してから2年が経ちました。看護の視点を軸に、さまざまな法案にかかわってまいりました。中でも昨秋の臨時国会で成立した特別養子縁組のあっせんに関する法案は、思いもひとしおです。自民・公明の議員有志で厚生労働省を含む各省庁の各担当者や衆院法制局と何度も議論し、修正を重ねたものを、当時の総務会長や関係議員らに説明に何うなど、汗をかきながら議員立法が作成され、成立していく過程を勉強させていただきました。障がい者総合支援法の改正では、医療的ケア児とご家族を教育・医療・福祉が連携しながら支援していく体制の構築について力を注ぎました。今後も、光の当たらずに暗いところにあたたかな光を当てていく政治家でありたいと思っています。

どうにかここまで来ることができたのも、看護職の先輩議員の皆さまからのご指導があってこそです。昨年3月に、待機児童問題等緊急対策特命チームの座長に就任しましたのも、看護職議員が築いてこられた信頼感によるものと思います。皆さまのご期待にそえるよう、しっかり成長してまいります。

超少子高齢社会の下、社会保障改革は待ったなしの課題です。これ以上、国の借金を増やし、若い世代に負担を強いる国であってはなりません。看護の視点を軸に、これからの医療・介護の在り方を考え、財政健全化を目指します。と同時に、活力あるまちづくり、再チャレンジ可能な社会、誰もがより健康で、活躍できる—その人らしい暮らしができる、居場所がある—社会の実現に努めてまいります。



ごあいさつ

参議院議員
石田 昌宏



鹿児島県看護連盟のみなさま、日頃よりお力添えを賜りありがとうございます。

通常国会も中盤に差し掛かり、本会議をはじめ各委員会においても連日審議が行われています。今国会では、早期に第3次補正予算及び平成29年度予算を成立させ、実行に移し景気対策につなげることもポイントとなっています。そのため2月末に衆議院を通過し、参議院での審議も進み年度内の予算成立が見込まれますが、年度内成立は実に18年ぶりのことです。

平成29年度は、保育士・介護人材等の処遇改善、保育の受け皿の拡大、働き方改革の推進などの充実が図られる一方で、財政健全化の面から社会保障関係費の伸びを抑制するため、高額療養費・高額介護サービス費の見直し、能力に応じた公平な負担などが行われ、経済再生と財政健全化を両立させるための予算となっています。

また、2018年の診療報酬と介護報酬同時改定に向け、今年は大きな山場を迎えます。後期高齢者がピークに達する2025年まで、医療・介護のニーズが高まり続ける中、これに対応した医療と介護の連携が重要となってきますが、2015年以降はニーズが減少に転じます。その後の医療提供体制を見据えた対応も必要となってくるため、しっかりと意見を述べていきたいと思っております。

国会の合間を縫い、全国の医療施設等を訪問していますが、訪れるたびに新たな発見があります。限られた人材・時間の中で、より良いケアを提供するために力を尽くしている誇らしい看護職の姿があります。その優れた工夫や取り組みを他の地域につなげていくのも私の役割と思っています。

地域包括ケアの中心的役割を担う私たち看護職が「良い看護ができた」と実感できることは、国民の皆様が安心して暮らせる社会の必要条件だと思います。看護の現場の明るさは、日本の元気のバロメーター!という信念で国政に取り組んで参ります。皆様とともに手を携え歩んでまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



財政金融委員会にて



受動喫煙防止議連にて



鹿児島県看護連盟平成28年度委員会活動報告

組織委員会年間計画報告・評価

組織委員長 吉崎和子

平成28年度は、第24回参議院選挙の年。重点目標に「強力な集票力を持つ」を掲げて活動してきました。委員会は、「11人の支部長が縦の糸。支部間の連携、各施設の施設幹事とリーダーの活動が横の糸。」の結束力を強化しました。

鹿児島県の獲得目標を7000票とし、研修の開催・地域の議員さん方への協力・連携をしながら、会員・非会員を問わず、「選挙に行こう」をスローガンに啓発活動に徹しました。しかし、3375票という結果に終わりました。候補者を国会に送ることは出来たととしても、目標未達成だったことは、大いに反省すべきです。様々な因子が重なったとしても、会員一人ひとりの意識づけの不足・施設内での投票行動の認識不足が大きな要因だと感じています。平成29年度は、看護連盟活動の原点に帰って、「基礎固め」をする年だと認識し、組織の強化と拡大を図ります。

政策委員会平成28年度活動報告・評価

政策委員長 中俣直子

平成28年度の政策委員会の活動は、看護師の労働環境問題に焦点を当て、現場の現状の把握を目的にアンケート調査の第2回目を実施しました。看護連盟政策委員会の役割は、「現場の声」から現在の問題点を掌握し、その問題を解決していく一方法として国政や市政の場に要望していくことです。

28年度も前回のアンケート調査の結果を鹿児島県自民党連合に要望事項作成の参考資料として利用させていただき、会員の皆様の声を直接行政に届けることができたと感じております。

また、第24回参議院選挙の年でもあり、研修会や広報誌などで候補者の活動等を紹介する等、組織委員会や青年部と協力しての活動も行ないました。しかし、「政治力の強化」のための活動が計画通りに実施できておらず、特に県議会議員や市議会議員へ、医療現場の実情を理解していただく場をつくることのできなかつたことは反省すべき点です。平成29年度は、この点を踏まえ、議員、関連団体との協力体制をさらに図っていきます。

青年部委員会活動報告

青年部委員長 中島 亘

看護の現場へ政治力が必要なことは言うまでもないことですが、そこへ若い年代の参画も近年これまで以上に必要不可欠となっています。そのため政治に対する若年層の関心向上や所属機関を越えた関係性の構築等を目的に活動を行ってきました。

それらを踏まえポリナビワークショップやフレッシュナース研修を始めとする若手向け研修の企画や運営に加え、平成28年度においては各委員が県内各地に出向いた小規模な研修も開始しました。当初5名体制でスタートした本委員会も今では、20名を超えるチームになっています。研修内容の質の向上や客観的な評価の実施、さらにはインターネット環境を活用した研修など今後取り組むべき活動内容も検討しつつあります。会員皆様の協力なしには、円滑な活動ができない本委員会ですが、現在だけではなく10年後や20年後先の看護界を見据えて今年度も活動を展開していきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。



ポリナビでのグループワークの様子



出前研修の様子(大隅地区)



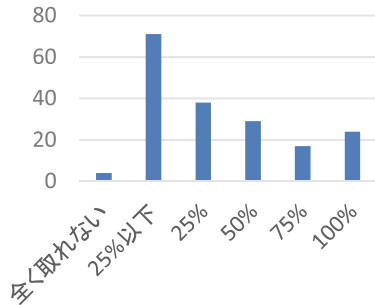
「現場の声」アンケート結果

看護政策委員会

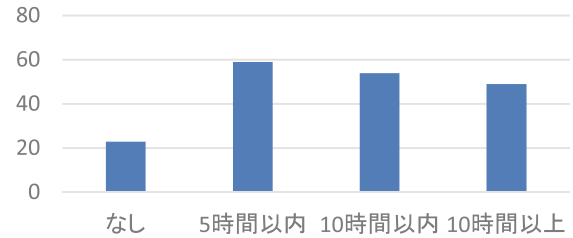
〈看護職の労働環境に関する結果〉

N:185

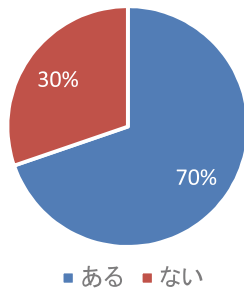
有給取得率



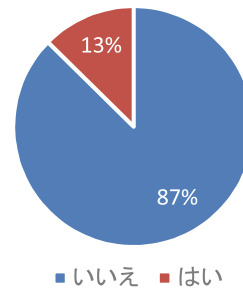
週平均残業時間



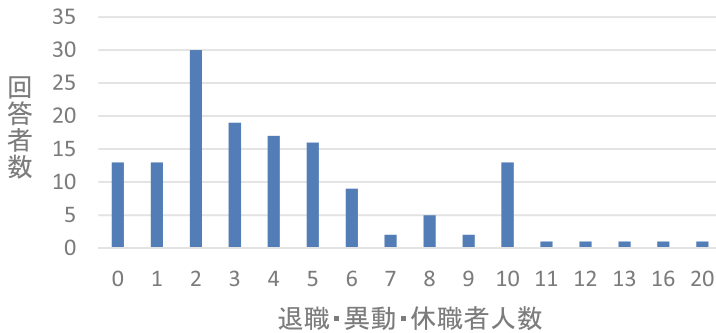
院内保育の有無



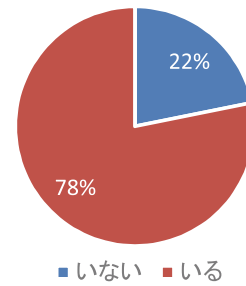
院内保育で病児も預けられるか



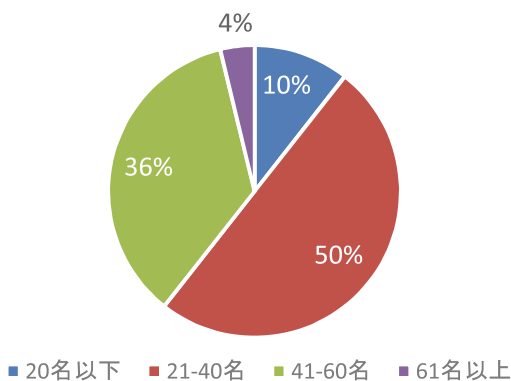
年間の退職・異動・休職者人数



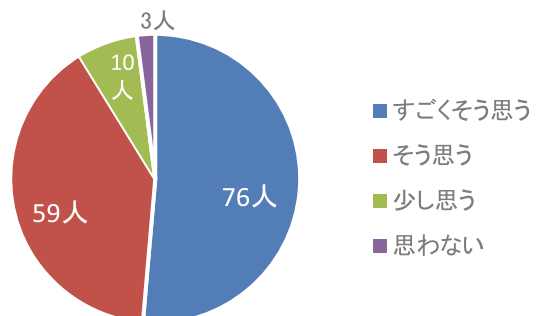
認知症を有する患者の有無



部署の認知症を有する患者数



認知症を有する患者とそうでない患者を比較してケアに要する時間は長くなると感じているか



鹿児島県看護連盟主催 OB 会開催



平成29年3月4日（土）に城山観光ホテルにて、鹿児島県看護連盟 OB 会が開催されました。参加者は OB の方が21名、連盟役員が17名の計38名でした。

OB の方は、長年看護連盟の活動に貢献され、礎を築いてこられた方々であり、かつ現在もたくさんの協力を頂いております。

OB の方と現役員との交流は、連盟の活動内容からお料理の作り方まで話題は広がり、楽しく過ぎて頂いたのではないかと思います。

「参加者の方から頂いた言葉」のほんの一部ですが紹介します。

- 「参加者の中で一番最高齢だと思います。今のところ、いたって元気で、スイミングなど運動も頑張っています。今後もお役に立てる事がありましたら、お手伝いさせて下さい。」
- 「今も、現役で仕事もしています。その他、ボランティアで皆さんの前で歌を歌ったりと充実した時間を過ごしています。」
- 「今日は、久しぶりに皆さんとお会いできてとても楽しかったです。このような機会を今後も設けて頂ければ嬉しいです。」



平成 28 年度都道府県別会議報告

日時：平成28年11月11日（金） 13：30～15：30

開催場所：県連盟事務所 参加者：27名

I 報告事項

第24回参議院選挙について総括アンケート結果について本部から①たかがい議員の得票数17万票で当選したが、連盟会員の20万をとれなかった、②各県支部への本部支援が不十分であった。③日本看護連盟の連携で協会の協力が得られなかった。④国公立看護管理者の関心が低い。⑤たかがい議員の知名度が低かった等の説明と今後に向けた10項目の課題が説明された。次に会長から、鹿児島県獲得目標数、第24回参議院選挙総括アンケートまとめ等を説明された。

II 協議事項

1. 第24回参議院議員選挙について

本部から提示された8項目（会員の投票率、看護協会との連携、後援会名簿システムのメリット・デメリット、支部・施設幹事・リーダーの連携、たかがい議員の知名度、選挙候補者との協力体制、連盟本部および、たかがい議員への要望）に沿って、5名の支部長、青年部幹事が説明した。また、今回の選挙は、会員一人が一人を選挙に連れていく事を基本に行い、目標には届かなかったが今回のデータを次回にいかしていくことを総括とした・

【質疑】本部から：各支部のリーダー（200名）は、リーダI、II、IIIを全て終了しているのか
県回答：終了していないのが現状である。

2. 連盟会員数の増加に向けての方策については、現在の会員数を減らさない、看護協会入会者の30%を目指す、看護協会とは連絡会や共催の研修で連携を図る、未加入施設を一つでも減らすように働きかける等である。日本看護連盟副会長 佐藤氏からは、鹿児島県の活動状況がよくまとめられ、理解できたと評価して頂いた。

日本看護連盟九州ブロック看護管理者セミナー報告



鹿児島第2支部支部長 英 裕子

看護管理者セミナーにて、熊本県南支部と長崎県央地区第3支部、鹿児島県鹿児島市第2支部がそれぞれの支部の活動の実際と課題を報告した。

今回の発表は、鹿児島第2支部が第24回参議院選挙において、支部区分別投票行動率が82.9%と高かった要因の分析結果を報告した。鹿児島第2支部は個人病院が多く、全看護職員会員の施設が3施設ある。

また、支部会への施設幹事の出席率も高い。ブロック会にて施設幹事の役割と施設におけるリーダーの役割について、研修を2回ほど行い、また、支部会でも同様の研修を行うことで、施設幹事、リーダーは役割を十分に理解し行動していたということが選挙後のアンケート結果に現れていた。

今回の選挙期間中は、施設幹事から各支部長へ期日前投票の動向を中間、最終日に報告してもらった。年齢階級別投票行動をみると35歳を境に投票率が60%台と80%台に分かれていた。前回の参議院選挙では、20代の投票率は全国平均が30%台であり、今回、若年層が上がったのは青年部の施設に出向いての研修や施設幹事やリーダーが若い年代に働きかけた結果だと考える。

20代は選挙そのものの経験が無いことや看護職員を身近な存在ととらえていないことが、35歳以上よりも以下が低い要因とも考えられた。そこで、県独自に39歳以下の会員へアンケートを行った結果、期日前投票と当日投票を合わせて78.1%が投票行動できていたという結果であり、21.9%の投票に行かなかった理由として、「政治に対して詳しい知識がない。」37%、「参加しても何も変わらない」18%、「政治に興味が無い」14%であった。

投票行動していなくても第24回参議院選挙に看護職が出馬していること、看護職の国会議員が必要であることは理解していたという結果であった。そこから、看護職議員を知っていること、看護職の国会議員が必要であることを認識していることが、必ずしも投票行動に結びつくわけではないことがわかった。

看護職の国会議員がいなければ将来の看護職の労働環境・給与改善、人材確保は困難と思われる。国会議員を出すためにも政治の知識が無い、興味の無い69%の若者に看護職の国会議員を身近に感じてもらう、共感してもらうことが必要である。そのことを踏まえ、看護連盟は、どのような方法をもって会員の皆様と看護職議員をつなげていくかを考えていく必要があると強く感じた。

鹿児島県ポリナビワークショップ開催される

看護連盟 青年部副委員長 中村美由紀

平成29年3月11日(土)に鹿児島県ポリナビを開催し125名(会員68人、非会員57人)の参加がありました。

今回は「皆さんと一緒に考える災害医療」をテーマに、自然災害について考えていきました。当日は、東日本大震災から丁度6年を迎えた日であった事もあり冒頭で黙祷を行い、災害により亡くなられた多くの先人を偲び研修に望みました。

研修は、3つのテーマで講演を行い、講演Ⅰは大園清信県会議員による「鹿児島県の災害医療について」、県内での災害医療についての取り組みやJMATの活動内容でした。また今後起こりうる県内での災害についても話があり身近な問題として危機意識を持つ必要があると思いました。

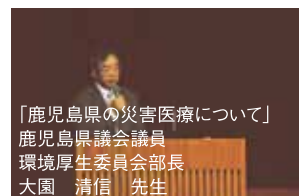
講演Ⅱ、熊本地震を実際に体験された吉岡香織さんの講演「熊本地震を体験して」では、震災当日、夜勤交替時間で少ないスタッフにも関わらず、入院患者を全員避難させリアルな体験談を聞き感銘を受け、実際自分達に降りかかって時に対応出来るだろうかという不安を強く感じ、訓練の必要性を痛感しました。

講演Ⅲは、「施設・病院の災害医療対策についての紹介」では、垂水中央病院での取り組みとして研修会や訓練内容など具体的に説明があり勉強になりました。

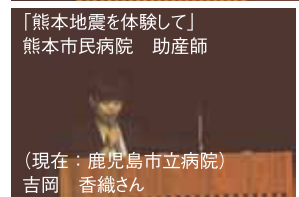
後半は意見交換会を行い、現場での問題・課題・対策を話し合いました。

今回、ワールドカフェ方式での話し合いを行う事で気軽に意見を聞けて、また、他グループの問題や対策を知る事ができて良かったです。しかし、参加者からは話し合いの時間がもう少し欲しかったなどの意見もあり今後の検討課題もありました。

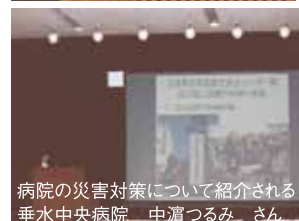
今回の研修で、「明日は我が身である」という認識を持って災害意識を持たなければならない為、自分達で出来ることを考えていかないと感じました。



「鹿児島県の災害医療について」
鹿児島県議会議員
環境厚生委員会部長
大園 清信 先生



「熊本地震を体験して」
熊本市民病院 助産師
吉岡 香織さん



病院の災害対策について紹介される
垂水中央病院 中濱つるみ さん



グループワーク



看護記録研修報告

平成29年1月14日に鹿児島県市町村自治会館において「看護記録研修」が開催されました。

講師は、平成17年から毎年来鹿していただいている聖路加看護大学名誉教授の岩井 郁子先生で、今年は、昨年に引き続き「看護記録の基本をマスターしよう～日本における看護記録の最低要件～」のテーマで1日講義していただきました。

内容は、今後の日本の医療の方向性とそれに伴い、変革していかざるを得ない現場のあり方、そして看護記録はその変化に伴いどのようなようになっていくのか、もしくはどのように記載しなければいけないのかを法令、看護記録指針（日本看護協会）を踏まえ、具体的に話して下さいました。

すぐに現場でいかせる内容であり、受講者の方に満足していただける講義でした。



毎年、受講希望される方が多い研修です。

今回も250名ほどの方が参加してくださいました。要件を満たし、かつ記載に時間がかからない記録とすることは共通の課題と思います。

講師の岩井先生です。東京都看護連盟の会長でもあられます。いつもその時々々の医療政策を踏まえ受講者のニーズに応じた研修をしていただいています。



受講生の方々もとても熱心に講義を聞いておられました。看護必要度や外来記録についてなどの質問もあり、皆様の興味・関心が高いことが伺えました。



元気のある職場紹介

大島支部 松田みゆき

大島郡医師会病院の紹介

当院は、病床数 188 床で一般病床 33 床、地域包括ケア病床 12 床、療養病床 143 床となっています。また、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、通所リハビリテーション、地域医療連携室があり、地域に密着した医療、看護、介護を提供することに努めています。

今回は、3 階病棟を紹介します。

療養病床44床、地域包括ケア病床12床の病棟です。患者様の年齢は、50歳から99歳と幅広く、男性20名、女性36名の方が入院中（原稿執筆時）で平均年齢82歳です。約半数の方が在宅に向けリハビリ中です。



特に地域包括ケア病床では、60日間集中してリハビリに取り組んでいます。

スタッフは、看護師21名、介護職11名です。派遣看護師もあり、今まで北海道、岩手、東京、県内でも鹿児島市、喜界島から来られ、仲良く頑張っています。

介護職が主となり月ごとの行事を計画し、患者様に楽しんでいただいております。

8月は“お祭り”をテーマにかき氷を提供したり、魚釣りをしたり、踊ったりと楽しく過ごすことができました。魚釣りは、竿を持つと身を乗り出して釣ったり、かき氷は「懐かしいね。」と言いながらおいしそうに食べていただきました。

奄美の祝踊り“六調”では、歩けない人が立ち上がって踊ったり、普段見られない表情や行動で、スタッフも一緒に楽しむことができました。

このように毎月の行事を計画し、患者様の持っている力を引き出すことができるよう、今後も取り組んでいきたいと思えます。

次回のテーマは“敬老会”です。どのような会にしようかと今からワクワクしています。





平成29年度看護連盟会員を募集しております。

正会員

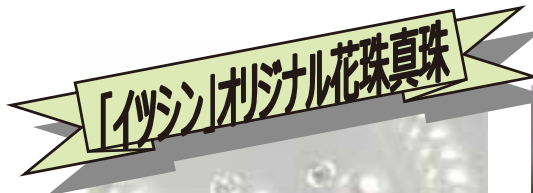
日本看護連盟会費	5.000円
鹿児島県看護連盟会費	3.000円
合計	8.000円

学生会員

看護師、または准看護師の資格を得るために学ぶ学生で、看護連盟の主旨に賛同していただける方

賛助会員

一般の方の賛助会費	1.000円
看護職の方の賛助会費	3.000円



華凛珠 (かりんじゅ)



アコヤ
グレーパール

取扱商品

- ・アコヤ真珠
- ・ベビーパール
- ・黒真珠
- ・南洋(白・ゴールド)真珠

真珠の事ならなんでもご相談下さい。

ネックレス糸替えクリーニングも
請けたまっております。

ISSHIN
〒862-0920 熊本市東区月出8丁目3-5 2
0120-32-2020



清潔な“ふんわり”が毎晩のご褒美です



EDEL

2017 collection

この心地良さ、誰にも譲れない

東洋羽毛のテレビCM「創業品質」

徹子の部屋 放映中! 毎週火曜日 昼 12:00~12:30
テレビ朝日(EX)系 全国24局ネット

東洋羽毛九州販売株式会社 鹿児島営業所

〒890-0063 鹿児島市鴨池1丁目64-25

TEL: 099-813-5950 FAX: 099-813-5953

0120-881125 URL <http://www.toyoumo.co.jp>